

スーパーマーケット景気動向調査

2023年9月調査結果（8月実績）
（2023年9月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

9月調査（8月実績）結果概況

現状判断は2か月連続で50を上回る

8月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-0.7の51.6と2か月連続で判断の分かれ目である50を上回った。見通し判断は前月から-2.3の45.5となり、小幅に悪化した。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に前月に比べ小幅に上昇した。引き続き生鮮品仕入原価DIと食品仕入原価DIが過去最高水準で推移し、販売価格DIが高止まりしている。買上点数の減少幅が抑えられ客単価DIが小幅に上昇、来客数DIは前月並みの水準を維持している。

カテゴリ動向調査では、前月からの傾向を維持したものの、生鮮三部門(青果・水産・畜産)の各DIは前月に比べプラス幅が縮小した。帰省客増加による需要拡大や猛暑による季節商材の販売が好調、惣菜DIは猛暑による調理敬遠、夏祭りやイベント需要などが好調を後押ししている。(最終ページに詳細掲載)

景況感調査では、現状判断を中心に高水準を維持しており、景気判断DI、消費者購買意欲DI、周辺地域景気判断DIでは、50を上回る水準で推移している。(長期傾向についてはP11参照)

引き続き価格上昇による買上点数減少傾向の影響を受けるなか、8月は帰省客の増加や記録的な猛暑、台風接近に伴う備蓄等による需要拡大が好調の要因となった。消費動向の見通しについては、不安を指摘するコメントも根強いなかで、旺盛な消費意欲を実感する声も多い。これまで続けてきた値上げの流れがお客様に浸透してきた一方で、ガソリン価格高騰や最低賃金改定、インボイス制度の本格施行、物流2024年問題など、今後も経営コストの上昇が避けられない状況であり、一過性の過剰な価格競争環境に戻ることなく、適正な単価を維持できるか、スーパーマーケット業界の将来を左右する重要な局面となる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：51.6 (-0.7) 前月：52.3	消費者購買意欲DI 当月：50.4 (+2.1) 前月：48.3	周辺地域 競合状況DI 当月：46.6 (+0.2) 前月：46.4	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：50.3 (+0.2) 前月：50.1
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：45.5 (-2.3) 前月：47.8	消費者購買意欲DI 当月：46.2 (-0.6) 前月：46.8	周辺地域 競合状況DI 当月：45.0 (+1.2) 前月：43.8	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：48.3 (-0.9) 前月：49.2
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：13.3 (+1.6) 前月：11.7	客単価DI 当月：19.9 (+2.2) 前月：17.7	来客数DI 当月：-4.3 (+0.4) 前月：-4.7	
収益DI 当月：9.6 (+1.9) 前月：7.7	販売価格DI 当月：25.6 (0.0) 前月：25.6	生鮮品仕入原価DI 当月：21.0 (0.0) 前月：21.0	食品仕入原価DI 当月：24.2 (+0.2) 前月：24.0

カテゴリ動向

青果DI 当月：5.8 (-2.6) 前月：8.4	水産DI 当月：6.5 (-3.3) 前月：9.8	畜産DI 当月：-0.3 (-6.5) 前月：6.2	
惣菜DI 当月：16.9 (+0.4) 前月：16.5	日配DI 当月：18.9 (+1.4) 前月：17.5	一般食品DI 当月：12.0 (+1.8) 前月：10.2	非食品DI 当月：-1.1 (+0.4) 前月：-1.5

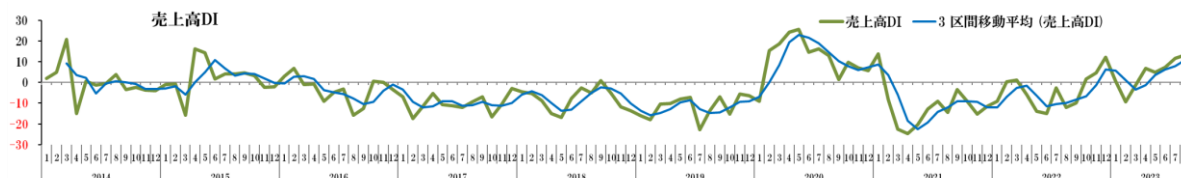
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

当月小幅に上昇し、プラス幅をやや拡大

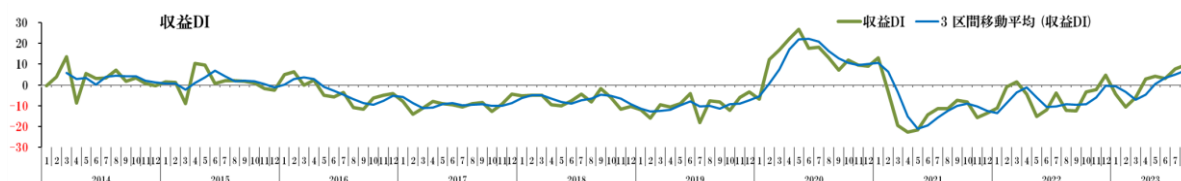
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	3.9	14.0	26.4	42.7	12.9	11.7
売上高 (当月)	4.9	9.8	25.0	48.2	12.2	13.3



2. 収益DI

当月小幅に上昇し、プラス幅をやや拡大

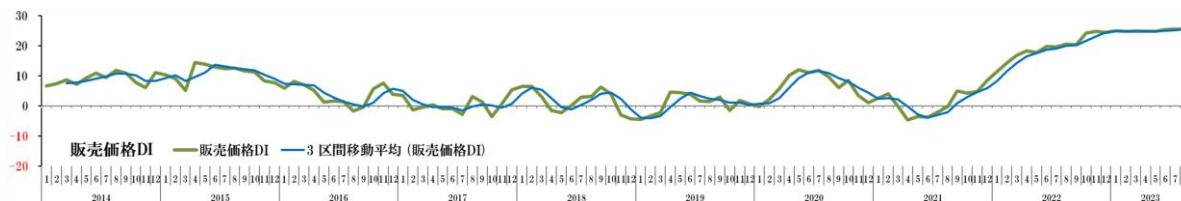
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	3.4	17.6	35.2	32.4	11.4	7.7
収益 (当月)	4.3	15.5	30.4	36.6	13.0	9.6



3. 販売価格DI

前月から横ばい、引き続き最高値付近で推移

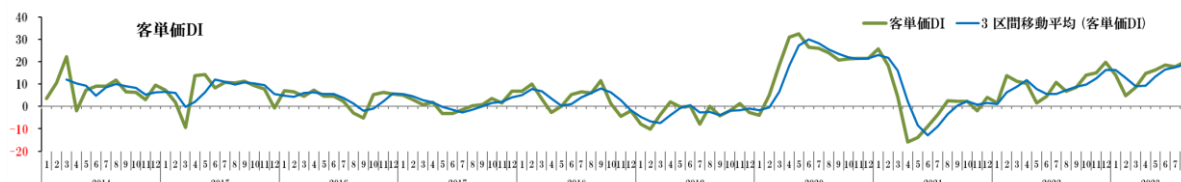
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	0.0	11.3	75.1	13.6	25.6
販売価格 (当月)	0.0	0.6	12.3	71.0	16.0	25.6



4. 客単価DI

前月から小幅に上昇、プラス幅をやや拡大

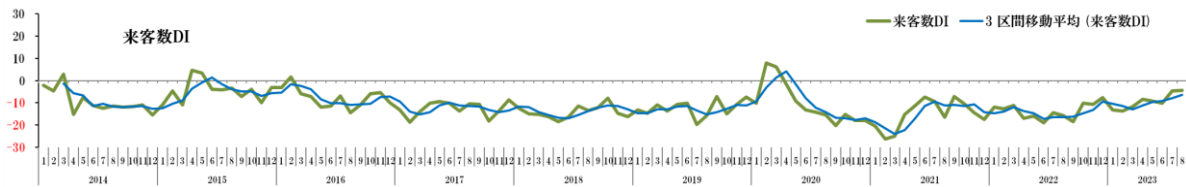
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	4.5	24.3	65.0	5.6	17.7
客単価 (当月)	0.6	3.7	19.0	68.7	8.0	19.9



5. 来客数 DI

前月から横ばい、小幅なマイナス

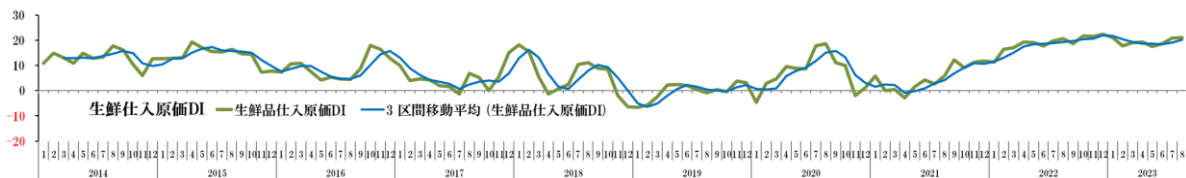
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	6.3	34.1	34.1	23.3	2.3	-4.7
来客数 (当月)	7.3	34.8	28.7	26.2	3.0	-4.3



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から横ばい、二桁プラス水準で推移

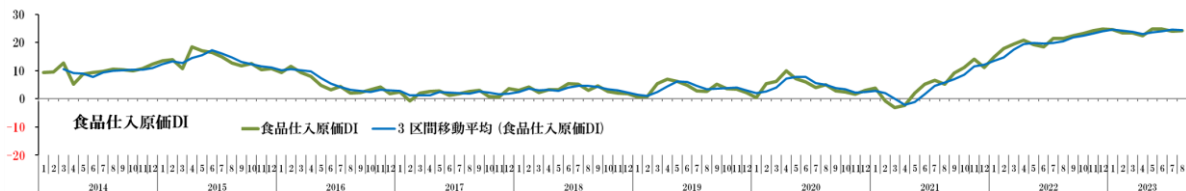
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.6	4.6	16.2	67.6	11.0	21.0
生鮮仕入原価 (当月)	0.6	3.8	17.1	67.7	10.8	21.0



7. 食品仕入原価 DI

前月から横ばい、28か月連続プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.2	1.8	16.4	61.4	19.3	24.0
食品仕入原価 (当月)	1.3	0.6	17.2	61.8	19.1	24.2

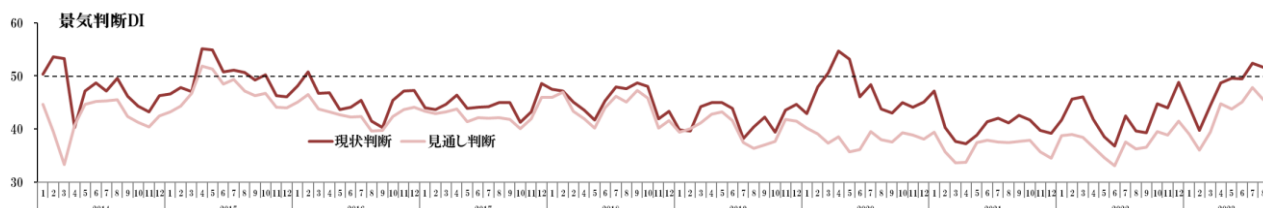


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

見通し判断は小幅に悪化も、現状判断は2か月連続で50 超え

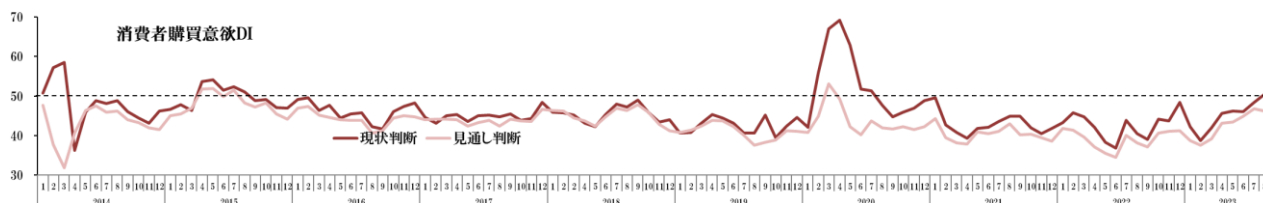
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	1.7	11.0	63.5	23.8	0.0	52.3
【現状】景況判断 (当月)	1.8	13.2	62.3	22.2	0.6	51.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	2.8	19.3	61.9	16.0	0.0	47.8
【見通し】景況判断 (当月)	2.4	25.9	59.0	12.7	0.0	45.5



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は小幅に改善し50 を上回る、見通し判断は前月水準

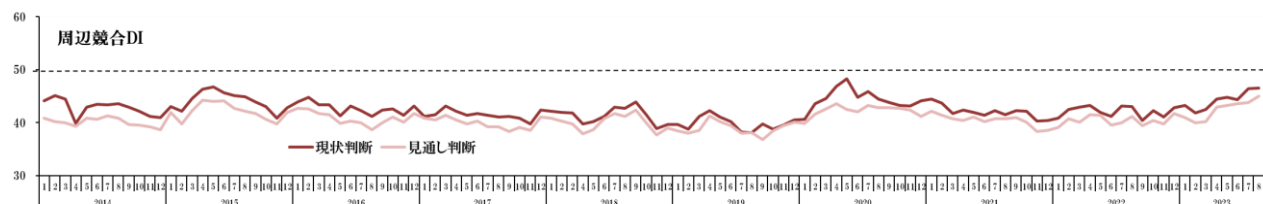
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.7	18.2	65.2	14.9	0.0	48.3
【現状】購買意欲 (当月)	1.2	16.8	61.7	19.8	0.6	50.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.7	23.3	61.1	13.9	0.0	46.8
【見通し】購買意欲 (当月)	1.8	25.3	59.0	13.9	0.0	46.2



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は前月水準、見通し判断は小幅に改善

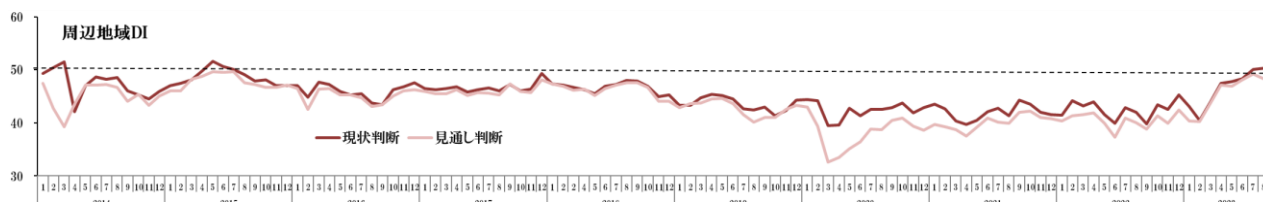
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	1.7	19.3	71.8	6.1	1.1	46.4
【現状】競合状況 (当月)	2.4	14.4	78.4	4.2	0.6	46.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	3.3	24.3	67.4	3.9	1.1	43.8
【見通し】競合状況 (当月)	3.0	19.3	72.9	4.2	0.6	45.0



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に前月と変わらず

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.7	9.4	76.2	12.2	0.6	50.1
【現状】地域景気 (当月)	1.2	8.4	78.9	10.8	0.6	50.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.7	12.7	73.5	11.6	0.6	49.2
【見通し】地域景気 (当月)	1.2	13.4	76.8	7.9	0.6	48.3

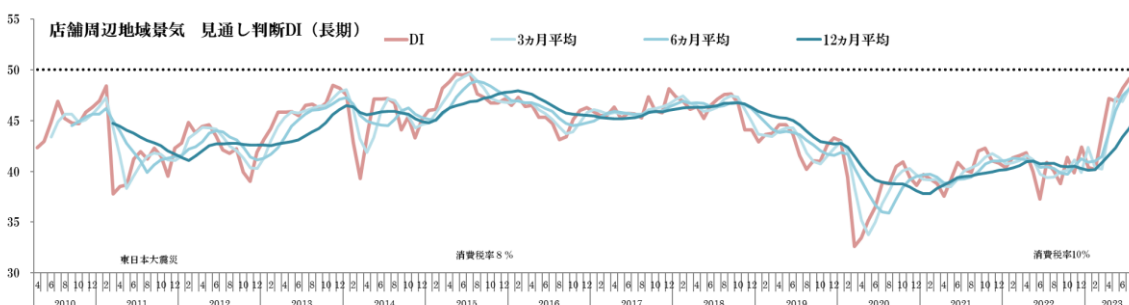
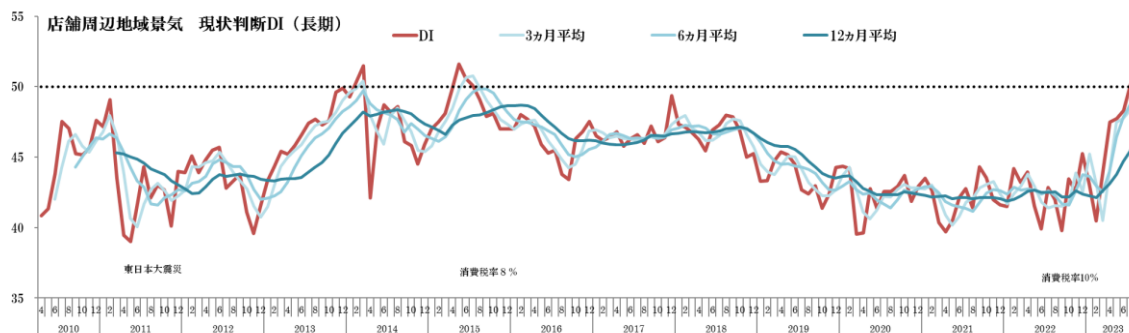


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

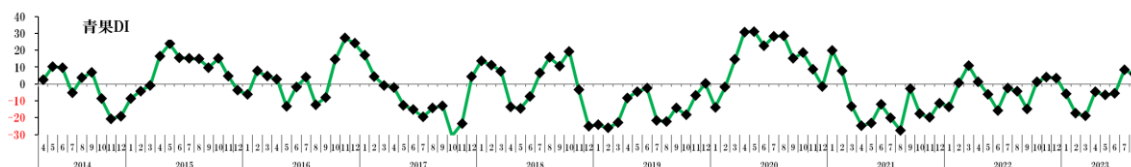
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化した。感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。その後23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果 DI：5.8（やや好調）

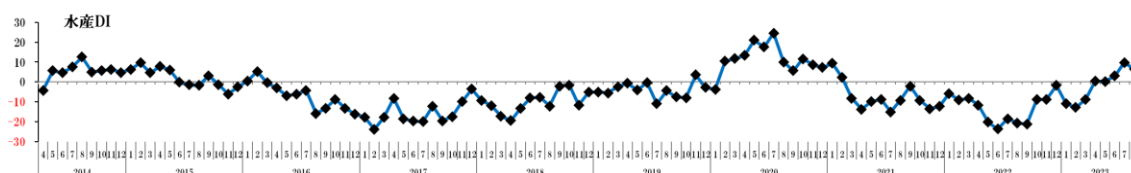
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	4.6	19.1	27.2	36.4	12.7	8.4
青果（当月）	6.3	21.4	24.5	38.4	9.4	5.8



青果相場は高温の影響で相場高傾向となり単価上昇を牽引したが、品質低下や不安定な入荷状況の影響を受けた店舗もみられた。気温が高く推移したことでトマトやきゅうり、ブロッコリー、レタスなどのサラダ関連、ナスやピーマンなど夏野菜が好調に推移した。国産果実では、スイカや、高温で出荷が前倒しとなった梨、ブドウなど秋の果物を中心に好調、カットフルーツも引き続き動きがよい。バナナやキウイフルーツなどの輸入果実も好調となった。

2. 水産 DI：6.5（やや好調）

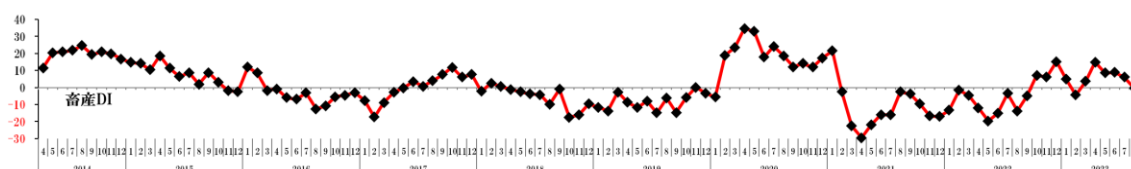
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	4.0	14.5	30.1	41.0	10.4	9.8
水産（当月）	5.7	20.9	27.2	34.2	12.0	6.5



引き続き価格は高止まり、台風の影響で入荷不足が発生した店舗もみられた。お盆時期は需要が増加し、マグロやカツオなどの刺身類、ウナギが好調、バーベキュー用商材の動きがよかった。水揚量が多いアジ、サラダ関連、塩干類は前月から好調を継続している。エビ類は相場が安定したが、イカ類は価格が高騰しており不振となった。貝類には回復傾向がみられた。ALPS 処理水放出に関するコメントは寄せられておらず、販売への影響は聞こえてこなかった。

3. 畜産 DI：-0.3（やや不調）

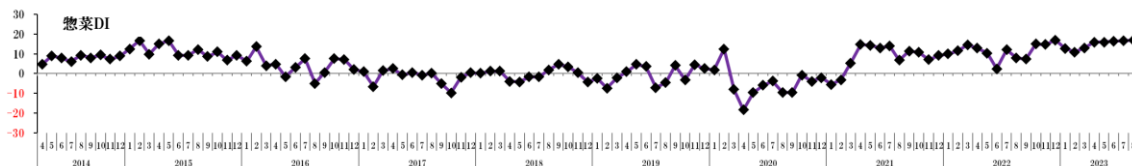
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	4.6	23.0	25.9	36.2	10.3	6.2
畜産（当月）	8.2	26.4	28.3	32.7	4.4	-0.3



精肉全般で相場高が続いており、豚肉や鶏肉に需要がシフトした影響を受け、カテゴリーとしては伸び悩んだ。牛肉は低調が続く。国産牛価格が落ち着き、お盆時期の焼肉需要、週末の高単価商品の動きは好調だが、その他の時期は苦戦した店舗が多い。豚肉は、小間切れや挽肉など普段使いの商品を中心に好調。国産豚の動きがよい。鶏肉も高値が続いているが、ムネ肉を中心に好調に推移した。ハムやソーセージなどの加工肉は値上げの影響で不振、ギフト関連も低迷した。売上高は確保できても利益が出にくい状況が続いている。

4. 惣菜DI：16.9（好調）

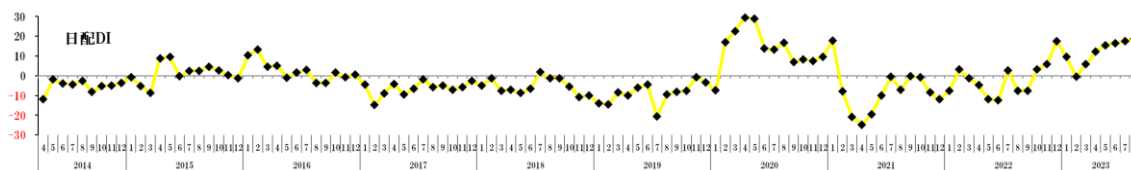
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	2.9	8.8	22.8	50.3	15.2	16.5
惣菜（当月）	3.2	7.6	24.7	47.5	17.1	16.9



地方部では、夏祭りなどイベントの再開やお盆時期の帰省客の増加などによる需要拡大により、オードブルや寿司類が好調となった。気温が高く、サラダ関連や冷やし麺類などの涼味、焼鳥などのつまみ類の動きがよかった。家庭での電気・ガス代高騰や酷暑による調理敬遠を追い風に、天ぷらや唐揚げ、コロッケなど揚物類は好調を持続。昼食・夕食需要の回復も続いており、米飯類の動きがよい。都市部では、インバウンド需要の回復を指摘するコメントもみられた。

5. 日配DI：18.9（好調）

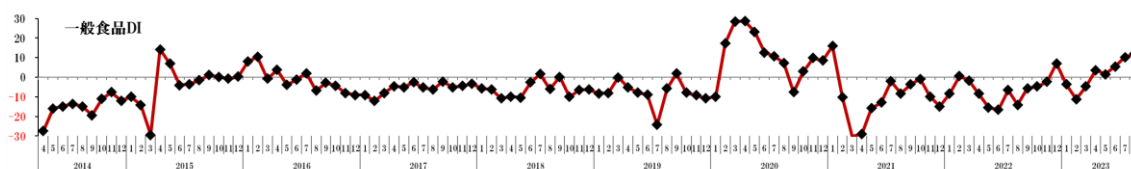
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	2.3	7.5	27.0	44.3	19.0	17.5
日配（当月）	1.3	10.0	21.9	45.6	21.3	18.9



値上げの影響が大きいカテゴリーとなっているが、全般的に買上点数の減少は小さく、一品単価上昇により、販売額は引き続き好調に推移している。月を通じて猛暑が続いたことで、涼味麺や涼味食材、飲料やアイス、デザート類の動きは安定的に好調となった。価格高騰が続く鶏卵は、商品供給が回復傾向にあり売上増となった。価格改定のあったパンや冷凍食品は調理敬遠傾向もあり、引き続き好調を持続。再値上げの牛乳など乳製品、納豆や豆腐など、食生活に欠かせないベーシックな商品群は点数減が小幅で、売上が伸長した店舗が多い。

6. 一般食品：12.0（好調）

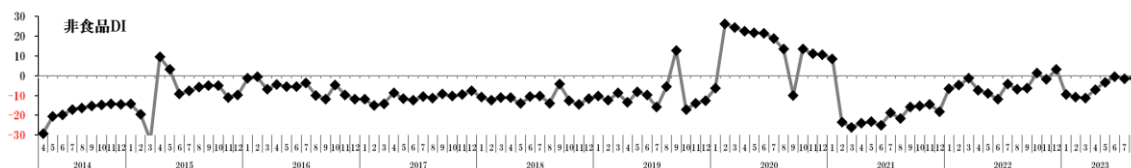
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	5.3	16.4	25.1	38.6	14.6	10.2
一般食品（当月）	3.8	15.6	23.1	43.8	13.8	12.0



全般的に販売価格上昇による買上点数の減少がみられるものの、地方部では帰省客の増加により需要が拡大し堅調に推移した店舗が多い。高温により、飲料や酒類、そうめん、つゆなどの季節商材、パスタソースなどレトルト食品が好調となった。熱中症対策商材の動きもよい。菓子類は値上げで単価が上昇、食用油や調味料類も調理敬遠傾向の中、値上げで堅調に推移した。米類は回復傾向がみられる。ギフト関連は前年並みに推移した。台風の進路にあたる地域で、接近前の買い置き特需が発生したことも好調の要因となった。

7. 非食品DI：-1.1（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	10.0	30.6	25.3	23.5	10.6	-1.5
非食品（当月）	7.7	33.3	26.3	21.2	11.5	-1.1



カセットコンロやレジャーシートなど行楽、レジャー関連の動きがよく、日焼け止め、殺虫剤や虫ケア用品など季節商品も好調を継続。マスクやハンドソープ、除菌関連など衛生用品は需要減少が続き不振だが、単価が上昇しているペットフード、トイレトペーパー・キッチンペーパーなど紙製品は好調に推移に推移した。前年の在宅支援物資の反動減や、ホームセンターやドラッグストアとの競合の厳しさを指摘するコメントがみられた。

カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2023年9月調査（8月実績）キーワードTOP3

1. 帰省客の増加によるお盆商戦好調
2. 猛暑による夏物・涼味商材、惣菜好調
3. 値上げによる単価増と点数減

（参考）2022年9月調査（8月実績）キーワードTOP3

1. 気温上昇による夏物商材好調
2. 感染再拡大による巣ごもり需要の回復
3. 相次ぐ値上げ

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

8月実績速報版 167社
 7月実績確報版 181社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp